

中国・四国支部

支部長 足立誠司

【活動報告】

1. 中国・四国支部世話人会開催
2020年11月にメーリングリストにて開催しました。
詳細は前回ニューズレターを参照してください。
2. 中国・四国支部ニューズレター
No. 16 を2020年8月に発行しました。
No. 17 を2021年3月に発行しました。

【今後の活動予定】

1. 中国・四国支部世話人会開催（オンライン）
2021年5月23日（日）16時～18時
2. 2021年中国・四国支部大会開催（ハイブリッド）
会期：2021年5月30日（日）9：00～15：15
大会テーマ：いのちが語り、いのちを引き取る
大会長：足立誠司（鳥取市立病院）
開催方法：オンライン開催（ZOOM ウェビナー）
午前の部：事例検討会（13題）
午後の部：
講演 平野啓一郎「私とは何か、個人から分人へ」
対談 徳永進、平野啓一郎 「いのちと分人」
対象：医療介護福祉従事者限定（コロナ禍のため）
定員：オンライン 500名
鳥取県居住者現地参加（東部医師会館）50名
参加費：支部・本部会員 1000円、非会員 1500円
支部大会 HP：<https://hospital.tottori.tottori.jp/1778.html>

「支部大会長挨拶」

私たちは、援助者として死の臨床で関わった方々のいのちの語りを聴き、それぞれの人生の物語や想いを何らかの形で引き取り、その体験や経験を援助者自身の人生の物語に累積して生きていきます。そしていつか私たちも自分のいのちを誰かに引き取られ、いのちの連鎖は続いていきます。本支部大会がいのちについて深く考え、一人一人のいのちへの向き合い方、寄り添い方を共に学ぶ機会となることを願って今回の大会テーマに致しました。

午前の部は一般演題13題を予定し、医療介護関係者で死の臨床における真の援助について深く学び合う機会にしたいと思います。午後から芥川賞作家の平野啓一郎氏による特別講演「私とは何か、個人から分人へ」を開催します。誰かの支えになろうとする人こそ、一番支えが必要だと言われています。自分を援助できてこそ、他者を援助できる。そのための大切な要素の一つにセルフケアがあります。今回、特別講演に平野氏を招聘したのは、同氏が述べている「分人主義」という斬新な視点がセルフケアに有効ではないかと考えたからです。講演会が自分とはなにか、支援者とはなにかというアイデンティティーについて深く考える機会となり、分人という概念が支援側のケアとなり、ひいては死の臨床にある方々へのケアに繋がっていくことができれば大会主催者として幸甚です。また、本会は第26回鳥取緩和ケア研究会との共催です。鳥取緩和ケア研究会の世話人で、鳥取市でホスピスケアを実践している徳永進氏と平野氏の対談「いのちと分人」も企画しています。長年ホスピスケア

に携わり、死の臨床に造詣の深い徳永氏と平野氏の対談がどのように繰り広げられるのかまったく予想ができず、大会長としては、期待と不安が入り混じります。先の読めない、まさに臨床現場のような場となると思いますので、何が飛び出すかわからないハラハラした臨場感のあるいのちについての対談を楽しみにしてご参加いただければと思います。

【入会のご案内】

中国・四国支部では新規入会をお待ちしています。
お気軽にご相談ください。

事務局

〒680-8501 鳥取県鳥取市的場1丁目1番地

鳥取市立病院内 担当者：米山ちづる

TEL 0857 (37) 1522、FAX 0857 (37) 1558

E-mail : c-rinsyo@hospital.tottori.tottori.jp